

さかもと  
坂本グリーンツーリズム運営委員会

～廃校を拠点に過疎地域を盛り上げ！～



若者の力でひな街道イベントを盛り上げ



激坂に挑戦する「さかもと坂道マラソン」

## 経緯

- 平成11年、地元小学校が廃校となり、地域の衰退が危惧された。
- 町が廃校舎を「農村体験宿泊施設」に改修し、地元が運営することで、平成14年、施設が開業。
- 住民有志が当団体を設立し、活動を開始した。

## 取組内容

- 廃校を活用した「ふれあいの里さかもと」を拠点に、地元高齢者が指導して「農村体験事業」の実施や地産地消の「田舎料理」の提供を行っている。
- ひな祭りイベント「ビッグひな祭り」と連携したイベントの開催や特産品の温州みかん栽培講座等に取り組んでいる。
- 若者の参画が得られ、「坂本元気ネットワーク」を結成。「さかもと坂道マラソン」の開催等若者が賑わいを創出。

## 活動の効果

- 県内外から町人口の5千人を大きく上回る年間利用者があり、地域の活性化につながっている。また、女性を中心に60人以上の地元スタッフを雇用している。
- 「坂本ならではの」文化や産業の継承・振興に取り組むことにより、地域住民の連帯感を高めるとともに、町の活性化、イメージアップにつながっている。
- 若者が地域の活性化に関心を持ち、主体的に行動している。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

「ふれあいの里さかもと」は、町の最奥部に位置しながらも、町になくはない存在となり、町のイメージアップにも貢献するなど、「廃校活用」のモデルとなっている。



## かみかつ棚田未来づくり協議会

～コロナに負けない新たな棚田の元気づくり～



棚田アイス



ウェブ棚田談議所

## 経緯

- 平成23年度全国棚田サミット開催をきっかけに、上勝町4地区で活動開始。
- 過疎高齢化のため、単一地区での棚田保全・活性化活動の推進は困難なため、連携して活動。
- 平成24年度より「棚田感動ビジネスプロジェクト」、平成29年度に「棚田未来づくりプロジェクト」開始をきっかけに、当協議会を設立。

## 取組内容

- 棚田資源を活用した「棚田50の冒険」の冊子の制作に取り組む。
- 4つの棚田地域のお米をブレンドした棚田アイスを開発。「棚田アイス・ウェブ試食交流会」を開催予定。
- 「ウェブ棚田談議所」を開催。「ナイトツーリズム」「電動キックボード」等をテーマにウェブで交流。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により抜本的に活動方法を転換。

## 活動の効果

- 「棚田50の冒険」の冊子制作に若手人材1名が新たに参加。
- 徳島空港内での「棚田アイス」の販路を獲得。販売の見込みができた。
- 「ウェブ棚田談議所」は28回開催し、累計参加者は203名となり、新たな関係者の獲得につながっている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

「棚田未来づくりプロジェクト」は、過疎高齢化がすすむ棚田集落で、交流活動促進による元気な集落の持続や集落居住をめざします。また、新型コロナウイルス感染症の影響により活動方法を見直して取り組んでいます。

ばんどう  
株式会社 阪東食品

～本物は心を動かす～



JAかいふ実生ゆず搾汁風景



フランス展示会でお客様と

## 経緯

- 柑橘の栽培・加工を行う両親を手伝うため、輸入車ディーラーから転職。
- 国内中心の営業活動だったが、海外志向もあり四国の山奥の個人事業者が海外でどこまで通用するのか挑戦してみたかった。
- JETROの輸出セミナー等に参加した際、上海での商品販売を勧められたことがきっかけ。

## 取組内容

- 自社農園で柑橘と発酵茶の栽培から加工まで行う。
- 県内の農家やJAからも果実を購入して加工・輸出を行っている。
- 上海・香港の展示会に参加し、2012年、はじめて上海にぽんずを輸出。
- すだち・ゆこう果実を買取して搾汁し、ヨーロッパを中心に12カ国以上で業務用として流通させている。

## 活動の効果

- それなりに成果も出始め、県内のゆず農家からの買取量は2009年と比較して約8倍になった。
- JAかいふから相談があり、JAかいふの実生ゆず果実を買取りし、当社で搾汁して海外専用ラベルを作成し、2020年よりフランスに輸出を始めた。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

当社の販売努力により、微力だが付き合いのある農家や阪東食品・阪東農園に関わっている人たちの所得向上・モチベーションUPに繋がるとともに、畑や山の景観保持にもつながり、社会貢献できればとの思いが強くなってきた。

## 一般財団法人 さなごうち

～徳島県唯一の村を未来へつなぐ～



移住空き家相談の様子



さなのごちそう便り

## 経緯

- 本村は徳島県の東部に位置する、美しい自然と農村の原風景を有する、約1000年の歴史を持つ徳島県最後の村である。
- 地域の暮らしを守り、地域に伝わる生業・暮らし・文化・景観・コミュニティを将来の世代に継ぐことを目的に、平成28年佐那河内村が地域運営組織として当法人を設立。

## 取組内容

- 空き個人商店を改修した地域交流拠点「新家」を開設。カフェスペース、サテライトスペースを兼ね備えた事務所で地域交流支援センターを運営。日替わりシェフによる「村ランチ」を提供。
- 平成30年よりお試し移住施設「幸家」を開設。
- 地域資源を活用したふるさと産品を開発。「さなのごちそう便り」を発行し、村で活躍する人々の生業や暮らしを紹介している。

## 活動の効果

- 平成29年より移住及び空き家の相談窓口業務を村役場から地域交流拠点「新家」に移設することにより、より多くの人々が気軽に相談できるようになった。
- 「幸家」は佐那河内の暮らしを体験しながら、物件探し等できる機会を創出している。
- 「村ランチ」は家庭の味が楽しめるという好評で、ランチを提供する者も佐那河内の食材を使ったおもてなしができると、やりがいを持てた。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

役場や地域との連携を強化し、移住・定住・交流の促進に関する活動やふるさと産品の開発等を今後も発展させていく。

しらもも かおる  
白桃 薫

～地産地食 育てる、つくる、食べる、つなぐ～



白桃 薫



地域の食材をたっぷり使って作られる料理

## 経緯

- 中山間地域の神山町では、農業者の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の増加などが大きな社会問題になっている。
- 地域の農と食を次の世代につないでいくために町役場、サテライト企業、町の公社の3者が出資し、取組を始めた。

## 取組内容

- 「育てる、つくる、食べる、つなぐ」という小さな食の循環システムを通し、地域で栽培した農産物を使った食堂・パン屋・食品店を運営。地元の食材で加工品を開発。
- 新規就農者の受け入れを実施。
- 子供たちとの農業生産、加工、販売などの体験を実施。
- 地元の農業高校と連携し、環境保全型農業を軸とした、農業生産、加工、販売などのカリキュラムを構築。

## 活動の効果

- 地域の農業問題の解決、食文化の継承、雇用創出、移住促進、コミュニティの活性化、次世代教育など、幅広い範囲での地域社会の課題解決を担っている。
- 「地産地食」で地域を育て、地域で食べる食を支え、若者が日々の農作業や料理に打ち込む姿が、地域の人々の協力意識を変え始めている。
- 農地情報や食材の提供など様々な協力連携体制ができはじめてきた。

## 応募団体(者)からのアピール・メッセージ

農業の高齢化や食文化の継承は、日本全国の中山間地域の課題であり、フードハブという考えを広め、様々な地域でそれぞれの課題解決の糸口になるよう協力していく。

## (株)フードハブ・プロジェクト

～地産地食 育てる、つくる、食べる、つなぐ～



地域の人々でつくる加工品の開発・製造



地域の人々で農業や食文化を次の世代につなぐ

## 経緯

- 中山間地域の神山町では、農業者の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の増加などが大きな社会問題になっている。
- 地域の農と食を次の世代につないでいくために町役場、サテライト企業、町の公社の3者が出資し、地産地食に取り組む(株)フードハブ・プロジェクトを設立した。

## 取組内容

- 「育てる、つくる、食べる、つなぐ」という小さな食の循環システムを通し、地域で栽培した農産物を使った食堂・パン屋・食品店を運営。地元の食材で加工品を開発。
- 新規就農者の受け入れを実施。
- 子供たちとの農業生産、加工、販売などの体験を実施。
- 地元の農業高校と連携し、環境保全型農業を軸とした、農業生産、加工、販売などのカリキュラムを構築。

## 活動の効果

- 地域の農業問題の解決、食文化の継承、雇用創出、移住促進、コミュニティの活性化、次世代教育など、幅広い範囲での地域社会の課題解決を担っている。
- 農業高校に農家、料理人、加工品製造者などの人的リソースを提供し、魅力ある学校づくりを教員の方々と共に担っている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

農業研修生を地域に根付かせていくため、技術的な指導、農地の斡旋を進めていく。また、子供達が、将来この町で農業や食に関わる仕事に興味を持ち、始められる環境づくりをしていく。

きとうすぎいっぽんの  
木頭杉一本乗り保存会

～みんなでガロになろう！～



大会風景



大会風景(近影)

## 経緯

- 古くから木頭杉の産地である木頭地域では、バラ流しと呼ばれる一本ごとに流す方法で木材の搬出を行っており、そこから丸太の一本乗りの技能が生まれ、トラック輸送に変わる昭和30年後半ごろまで行われていた。
- 一本乗りの技術の伝承と地域おこしのためにイベントとして復活させた。かつての一本乗りの名残りが伺えるのは全国で唯一となる。

## 取組内容

- 一本乗り大会や講習会を実施。
- 乗れた距離に応じて10級～1級、名人ライセンスが与えられる。
- 大会2ヶ月前から毎週講習会を実施し、参加者の技能向上、伝承を図っている。
- 毎年、地元中学生への体験講習の実施や、大学生や各種団体からの体験教習の依頼も積極的に受け入れている。

## 活動の効果

- 「木頭杉一本乗り大会」は、他に類を見ない大会で、県内はもとより県外から毎年100人程度の参加者があり、夏の恒例イベントとして定着してきており、地域外の人との交流の場となっている。
- 地元中学生への体験講習により、大会に参加する生徒が増えている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

イベントのみによる広がりだけでなく、林業との連携、地域の活性化につなげていきたい。また、保存会の会員が高齢化しており、若手の育成、確保にも努めたい。


 きさわ  
木沢林業研究会

～山のお宝を活かす～



白皮剥ぎ作業は人の手で丁寧に仕上げる



食害のひどい山地で他団体との交流植林体験

## 経緯

- 那賀町では20年ほど前からニホンジカの食害が増え、防護対策を取らなければならなくなった。ミツマタだけ食害にあっていなかった。
- 1万円札の原料であるミツマタの90数%が輸入されていることを知り、国産ミツマタの生産に取り組むこととした。
- 加工は軽作業のため、年齢を問わずに行えるので、地域の活性化に繋がると考えた。

## 取組内容

- ミツマタの研究にゼロから取り組み、自生ミツマタの原木での出荷を始める。ミツマタの造林地作りにも取り組む。
- 苗木づくり・下刈り・補植・除伐・収穫と一連の作業を行うとともに、ミツマタ加工倉庫を建設し乾燥させた黒皮を出荷。
- 白皮剥ぎ作業まで取り組むと同時に加工・交流施設を建設。
- 植栽したミツマタが収穫でき、効率の良い収穫・皮剥ぎ・乾燥の方法や、質の良い状態で保存する方法の研究に取り組んだ。

## 活動の効果

- 新商品の流通にも成功し、ミツマタを那賀町の名産品としてPRする機会が増えた。
- 耕作放棄地などへの植栽にも取り組み、那賀町が日本一のミツマタ生産地となった。
- 地域の人たちと会話しながら作業をしたり、県外へ視察に行くことは高齢者の方々の活力となっている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

1万円札原料の半分以上が国内産ミツマタとなるよう活動していきたい。  
 新商品（藍染ミツマタなど）の開発にも力を入れ、老若男女を問わない幅広い雇用を実現し、地域の活性化と所得向上を目指したい。

那賀郡那賀町沢谷字井元34 Tel:0884-65-2022



あかまつえんか  
 特定非営利活動法人 赤松煙火保存会

～できたん どしたん 吹筒花火～



吹筒を藁縄で化粧する作業



神社での奉納風景

## 経緯

- 美波町赤松地区は過疎化と高齢化が著しく約200年続く伝統ある吹筒花火の作り手が減少。その製造技法の衰退と赤松神社への奉納花火の継続が危惧されていた。
- 平成7年、有志により「赤松煙火保存会」を設立。平成25年、「赤松煙火保存会」を持続可能な団体とするため、NPO法人として再構築。

## 取組内容

- 五穀豊穰と家内安全を祈願し赤松神社に奉納される吹筒花火は、15の花火組ごとに製造技法が異なり秘伝とされ、花火の美しさを競い合う。
- 各種イベントでの吹筒花火の実演を通して花火の魅力を発信し、伝統文化への理解を深めてもらう活動を実施。
- 花火工場の見学会、花火免許の取得奨励、事故防止のための保安教育などの活動に取り組む。

## 活動の効果

- 伝統の吹筒花火は、地域住民による手作りの花火、共同作業を通して、住民相互のコミュニケーションが図られ、地域の活性化にも繋がっている。
- 秋まつりに帰省する人達や地域外から花火の観覧に来る人も増加し、例年700人から800人の観覧客が訪れる。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

約200年の伝統がある吹筒花火は、地元の住民が手造りすることに特徴があり、点火され燃焼する花火の下を若者が「できたん どしたん」の掛け声とともに、勇ましく駆け巡る、全国の伝統花火の中でも珍しい風習です。

海部郡美波町赤松字総屋敷146-1 Tel:0884-79-3325

かわうち  
はーとふる川内株式会社

～障がい者(チャレンジド)の力を農業に～



農園で働く社員



ノーフクJASマークが貼付されたトマト

## 経緯

- 大塚製薬株式会社の特例子会社として障がい者雇用を進めいたが、知的障がい者へ十分な業務を提供することができていなかった。
- トマトの生産・販売を手掛けるグループ会社から農業の提案があり、障がい者雇用農園を設立。障がい者とともにトマトの生産と販売を開始した。

## 取組内容

- 障がい者の新規職域開発としてハウストマトの生産・販売に取り組む。
- 障がい者就労支援センターと協業し、トマトの栽培・加工・販売の全てを障がい者が行う6次産業化に取り組む。
- 「とくしま安<sup>2</sup> GAP農産物」認証を取得し、安全な職場整備と安心安全なトマトを市場に提供。
- ノーフクJAS事業者の認証を取得。ノーフクJASマークを貼付したトマトの販売を開始。

## 活動の効果

- 4名の知的障がい者の雇用から開始し、新規雇用を増やし、現在は7名を雇用している。
- 個々の障がい特性に応じた支援や指導を行うことで、職業人として農業に従事できるようになってきた。
- 障がい者就労支援センターと協業することにより、農福連携ー6次産業化が実現できた。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

ノーフクJAS認証と農福連携等応援コンソーシアムや農福特例子会社連絡会への参画を通して、全国的な農福連携を推し進めていきます。

## 株式会社 なかのファーム

～世界初 食べる御札で田舎にもインバウンドを！～



地域活性化・北島町やなると金時のPR活動/イベント出店

世界初「食べる御札」  
四国霊場第二十二番札所平等寺コラボ商品

## 経緯

- 四国・徳島には観光コンテンツとして四国八十八箇所のお遍路という文化的にも素晴らしいものがあるが、全国の観光ランキングではほぼ毎年最下位付近に位置。
- 素晴らしい観光コンテンツを徳島の特産品とユニークな商品開発やプロモーションで盛り上げたいと取組開始。

## 取組内容

- 徳島県の特産品「なると金時」を契約農家より直接仕入れ、オリジナルのお菓子に加工し、付加価値をつけて販売。
- なると金時を使用したお菓子で世界へ発信出来る商品として「食べる御札」を開発した(題字は平等寺住職に依頼)。
- 「食べる御札」は、インバウンド向けに英語版ポスターやフライヤーを作成し、外国人にもPR。

## 活動の効果

- 地元徳島県産なると金時を使用したスイーツの販売は年々増加している。
- お菓子のPRのためイベントに出店。来客数は年々増えている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

「食べる御札」をPRしていき、より多くの方に世界初「食べる御札」(英語名: LUCKY COOKIE)を知ってもらいたい。

きのした まさお

## 木下 正雄 (徳島県農林漁家民宿 うり坊)

～やまびこが響く農家民宿 うり坊～



「うり坊」の代表者 木下さん



農園における「だいこん」収穫作業体験

## 経緯

- 高齢化や人口減少が進む当集落に賑わいを取り戻したいという思いから活動開始。
- にし阿波地域の伝統的な傾斜地農耕や文化に対する理解を促進し、地域の活性化や文化の継承・保全ができればとの思いも活動のきっかけ。

## 取組内容

- 都会の学生が周辺の農家に出向き、「傾斜地農耕」の農作業を体験。
- 狩猟罟の見回り体験やシカやイノシシの解体作業の見学、狩猟体験を実施。
- 急傾斜地で栽培した野菜や蕎麦を使った料理やジビエ料理を提供し、地産地消をはじめとする食育に取り組む。
- 大学生と地元住民らによる当集落の課題解決に向けたワークショップを開催。

## 活動の効果

- 都会の学生たちに世界農業遺産に認定された傾斜地農耕を体験してもらうことで、集落の景観や伝統食文化、先人の知恵等を残していくことに繋がっている。
- 狩猟体験から、「食べる」ということは動物たちの「命をいただく」ことであると理解し、それに対して感謝する気持ちを実感してもらえた。
- ワークショップでは、地域の課題解決に向け、熱心な討論が繰り広げられた。

## 応募団体(者)からのアピール・メッセージ

世界農業遺産に認定された傾斜地農耕等を体験し、この地域の独特の景観や伝統、食文化、先人の知恵と工夫に溢れた田舎暮らしを実感してもらいたい。

ほいち  
合同会社 法市の干し芋

～限界集落 法市の挑戦！～



ブランド商品法市の干し芋ほいちも



地元中学生との干し芋体験

## 経緯

- 世界農業遺産認定地である法市集落では、古くから干し芋の生産販売が行われていたが、過量包装・廉価販売という商習慣が根強く、適正価格での販売が出来ていなかった。このことが集落衰退の一因になっていると考えた。
- 所得の確保、集落の存続のためには、適正価格での販売が必要不可欠であり、ブランディング・販路開拓を進め、地域資源の6次産業化に取り組むことを決めた。

## 取組内容

- 30代～40代の女性を「干し芋」のターゲットに、ブランディング。産直や卸販売を中心に販売していたが、昨年からインターネット販売に取り組む。
- 中学校への出前授業、干し芋製造体験を実施。
- 営農を核とした集落の再生を目的に、地域住民で集落活性化組織を設立。
- 本年度、ECサイト販売で集落の野菜とコラボ販売した、ハタ・法市集落のおすそわけショップを開設。

## 活動の効果

- 本年はコロナの影響により卸販売が80%減少したが、インターネット販売が10倍以上となり、売上のカバーができた。
- 体験授業の受入等により、法市の認知度アップにつながった。
- 「集落活性化組織」では、鳥獣害対策勉強会や芋生産による耕作放棄地の利活用を行い、景観維持と活性化に繋がっている。
- 集落住民が生産した1次産品を弊社が加工・販売を行うことにより、集落の所得向上が図られている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

関係人口を増やす取組でも十分集落は元気になれる。関係人口の増加と販路開拓により集落の活性化に努めていきたい。

三好郡東みよし町加茂6020-3 Tel: 0883-87-7888